



秋号

二十五年ごとに行われる通常聖年を過ごす私たちは、主の恵みに信頼し、人生の軌跡を見つめ直す機会をいただいております。二〇二四年の十二月二十九日から開幕した聖年も二〇二五年十二月二十八日で閉じられます(バチカンでは十二月二十四日から二〇二六年一

月六日まで)。この聖年では、巡礼に招かれており、私たちの教会も巡礼教会として指定され多くの人が訪れています。巡礼地として、人々の道し

聖年の歩み

主任司祭

パウロ 野口邦大

るべとしての使命を帯びた私たちは、自分自身と共同体(教会)との関係を見つめなおすことと、神様への回心を強め、信仰を育む恵みに与ることができるでしょう。

人生には、乗り越えるべき試練がやってきま

す。特に若い時に経験する試練とどう向き合うかにより、今後の人生に大きな影響を与えます。

フランススコ教皇は、二〇二一年の「王であるキリストの祭日」に、「若者よ、

あなたに言う。起きなさい」(ルカ七章十四節)とみ言葉を通して、若者たちに試練の中にあつても、それを乗り越える力と勇気、そして希望と連帯が若者たちにあることを信じて、「起き上がりなさい」というメッセージが読まれました。また二〇一九年に来日し

た時に東京カテドラルで行われた「青年の集い」の中で、「若者とは、友情をはぐくみ、他の人を気にかけ、異なる経験や見方を尊重し、これらを実現していく特別な感性がある」と言われました。

私たちが生きる上で、重要なことは、自分が何を手にしたかではなく、それを誰と共有するかとなっています。特に、このような厳しい状況にあつて、人との距離が広がる中で、それでも、私たちは、手を取り合って生きていくことで、一人の自立した大人へと成長し、他者の持つ豊かさを学んでいくことができます。

二〇二五年七月二十八日から八月三日までローマで行われた「青年の祝祭」

では、次世代を担う青年たちの力強さを感じる事ができました。教皇レオ四世は、「人生の充足は、受け入れることと分かち合うこと」と言われました。それは、イエス・キリストの名のもとに、自らの信仰への道を巡礼に重ね合わせることで、自らの信仰を強く保つことに意味を見出し、たとえ自分の夢を実現できないのではないかと悲観に陥ったり、正義と平和のために戦うことに限界を感じる事があっても、イエス様が、いつも共にいてくださることを信じ、突き進んでいけば、そこに希望と未来があるんだと力強

いメッセージを伝えてくださいました。

こうして、過去に捉われるのではなく、勇気を持ち起き上がり未来を紡いでいくこと。これこそが、人生における最大の喜びとなっているのです。私たちが行う一つ一つの出来事に、主の恵みが与えられることを願い、信仰の歩みを進めていきましょう。



大島教会訪問

シノドスの教会の歩みと霊的な交わりを！と大島教会訪問が行われたのは三月二十二(土)から二十三(日)でした。天気も良く、いい船旅が出来ると期待して竹芝に向かいました。到着したらジェット船欠航との事。参加者全員がっかりです。幹事の松本さんの説明を聞き、話し合いの結果、夜の大型船で行くことに決定。土曜日はみんな教会巡礼しようと云うことになり、聖年の巡礼教会で一番遠い五井教会を目指すことに。浦野神父様はカテドラルに車を取りに、その間に元気な人

は電車で出発。五井教会で全員揃いミサに与りました。その後、3つのグループに分かれての行動でした。小湊鉄道教会巡礼は神父様の車グループと電車グループ、私は電車で西千葉教会と築地教会を廻りました。それぞれグループ毎に夕食を済ませて竹芝に集まることになりました。グループ毎に楽しい時間を過ごし、私たち四人も電車と徒歩で教会を巡り、コーヒータイクを取ったり、夕食を一緒にして、分かち合いの一日を過ごしました。

竹芝についたら、又また大変なことが起きました。この旅行をお世話してくださっていた松本さんの発熱です。このまま続けるこ

とはできないと離脱、まとめ役は小平教会の田川さんに引き継がれ、十時三十分大型船に乗り込み、翌朝六時大島着。レンタカーと大島の平塚さんのご主人の車で島内観光。十時、大島教会でミサ、このツアーのメインです。ミサは人数が多いので、聖堂ではなくホールでした。丁度、横浜の方から来ていたカブスカウト関係の親子三家族も一緒です。ミサの中で自己紹介しながらの、心あたたまるミサでした。その後、交流・食事と続き、大島滞在九時間余り、忙しい旅ではありましたが、たくさんの方たち合いとお恵みをいただき、幸せな旅となりました。

ジェット船欠航というハ

プニングのお陰で聖年の教会巡礼と大島教会訪問の二つの霊的交わりとわち合い、浦野神父様と大島教会の皆さんには本当にお世話になりました。神様の愛を実感する旅でした。感謝です。

長谷川 慶子



※写真と案内は教区HPより参照させていただきました。

東京教区で近くて遠いのが、ここ大島教会です。伊豆諸島、小笠原諸島で建物としての教会は伊豆大島にあるこの教会だけです。現在は、教区本部事務局から月に一度司祭を派遣してミサが行なわれています。

「せせらぎ」について

「せせらぎ」はイエズス会主催の個人の霊性を深めるための黙想会です。教会内に掲示しているポスターのように、東京教区四教会、横浜教区七教会のほか、オンラインでも開催されています。参加者全員が、個別に、養成を受けた司祭、修道者、信徒と対話出来る時間が午前と午後の二回あり、昼食時には「食

べる瞑想」もあります。祈りの方法を色々と教えてもらえます。

普段の生活を送るなかで、他教会に行かなくても「祈り」を体験出来るすばらしい機会です。是非体験されてはいかがでしょう。

清瀬教会での開催は今年でも二十六年目に入りました。今年度は年三回の開催です。そのうち一回は国民の休日になっていますので、お仕事をお持ちの方も参加してください。次回は十一月二十四日（月祝）の開催です。皆様の参加をお待ちしております。

またお手伝いをして下さる方も募集しております。

宮田和子

よこいそ

ドウックス神父様

二〇二五年九月一日付、
清瀬・秋津両教会の協力司
祭として赴任されたドウ
カヤグ・アージー神父様
フィリピン(Abra)出身、
ご霊名は幼きイエスの聖
テレジア

一九九四年九月一日生ま
れの三十一歳

二〇二三年七月十九日叙
階、来日されたのは二〇二
十四年十月三十一日で、その
後南山大学で日本語を勉
強されちょうど一年です。
清瀬、秋津両教会に神様か
らの大きな恵となりまし
た。神父様が日本の生活に
慣れ、また、ご健康に恵ま
れ、私たちの導き手となら
れますよう、お祈りいたし

ます。次号では、神父様か
らも寄稿していただきま
す。乞うご期待!!!



清瀬教会信徒動向

二〇二五年四月～八月

【受洗・堅信】二〇二五年

復活祭

マリア小島 美沙さん(九

地区)

ヨセフ桑原 健一朗さん

(十地区)

マリアカタリナ

前田 さゆりさん

(四地区)

エリザベト林 日向さん
(五地区)

【転出】

テレジア 黒住 亜矢子

さん(麴町教会へ)

【転入】

アシジのフランシスコ

高松 尚志さん(八地区へ)

ヨゼフィーナ北村 文恵

さん(六地区へ)

【帰天】

マテオ・フランシスコ 鈴

木 保さん

(二〇二五年四月)

ボニファティウス

大久保 忍さん

(二〇二五年六月)

ルカ 高田 利哉さん

(二〇二五年六月)

レジア榎本 嘉子さん(二

〇二五年七月)

編集後記 寄稿いただいた皆様、ありがとうございました。頂いた原稿の期間が大きく開いてしまい、半年くらいの出来事の掲載になりましたことをお詫びします。次号はクリスマス・新年号になります。

Pablo 丸山



洗礼式



初聖体